

# 外国語学部のカリキュラム

## 履修にあたって

一つの言語を外国語として学ぶことは、その言語圏の歴史、社会、文化、さらに人間の行動様式、思考体系を学ぶことにつながります。外国語学部ではドイツ語、英語、フランス語を第一外国語として学び、併せて第二外国語としてさらに他の言語を学ぶことができるようカリキュラムが組まれています。言語は思考の道具であり、複数言語の運用能力の修得は、ひとつの言語の見方にとらわれない複眼的・多面的な視座を獲得することにもつながります。そのためにも、複数言語によるニュースソースとコミュニケーションを通して、情報を受容し、発信できる力をぜひ養ってください。異なる言語を使用する相手との歴史的・社会的・文化的背景の相違を的確にとらえ、内実のある討論をしていくことで、相互の理解や交流を深めることが可能となります。

世界は今、資源や生産物、人の移動など、さまざまなものが国境という既成の枠組みを超えて自由に移動し、地域・国家・民族などにとらわれない新しいグローバルな世界が形成されつつあります。このような国際社会の変容を考える時、グローバルな視点から思考し、行動することが必要不可欠な課題となってきます。そのためにも、複数言語の修得およびそれらの言語文化への理解が求められているのは自明の理といえるでしょう。外国語学部では、皆さんがこのような世界を見据えて、多面的な考え方をもって複数の言語を学び、国際社会で活躍できる力を養ってほしいと考えています。

また、大学で何をどのように学ぶかということは、卒業後の進路計画を抜きにしては考えられません。

現在の経済情勢は大変厳しいものがありますが、このような時期であるからこそ将来の職業選択を見据えて、しっかりと自己練成をしておくことが重要です。卒業後、社会で活躍できるさまざまな情報スキルをはじめ、検定試験による資格や技能を身に付けておくことも必要です。外国語学部には将来へ向けてのキャリア形成のための検定試験や各種資格試験に向けた講座をはじめ、国内、国外でのインターンシップなどに関するプログラムなどもありますので、それらを大いに利用してください。

最後に、外国語とそれぞれの言語圏に目を向けるあまり、足元の日本語と日本文化そのものに目を向けることもおろそかにしないように留意してください。皆さんの中には、留学を通じて外国語を現地で学び、日々の生活を通じてそれぞれの言語圏の文化に触れる機会に恵まれる方も多いと思います。その際、相手の国の人々の関心は、ほとんどの場合日本文化と日本語に向けられています。外国語と日本語は、文化面からも表裏一体の関係にあるということを常に忘れないようにしてください。

## 外国語学部について

外国語学部ではまず外国語を学び、実用的なレベルで完全に運用できる能力を身に付けなければなりません。この目的を達成するために、1～4学期に言語運用能力修得に重点を置いたプログラムが組まれています。

しかし、外国語教育の目的は、外国語の技術的な修得や実際の運用能力を身に付けただけでは果たせたとはいえません。言語そのものについての学問的知識を深めると同時に、それぞれの言語圏に生活する人々の根底にあるものの「見方」や「考え方」をしっかり把握する広い文化的視野を身に付けることが重要なのです。そのため、対象とする言語圏の「歴史」「社会」「文化」などに関する幅広い知識が不可欠となります。また、これらの知識を支える、より一般的な知識・基本的な教養が要求されるのは言うまでもありません。さらに、専門領域の知識を生かしていくためには、言語圏という枠にとらわれない、さまざまな領域での高度な知識も必要となってくるでしょう。

このような観点から、ドイツ語学科、英語学科、フランス語学科には、「交流文化論」という科目が設けられています。これは、交流文化学科のツーリズム部門およびトランスナショナル部門の一部の科目を、自分の所属学科の専門科目と同様に履修できるものです。また、交流文化学科には、「ヨーロッパの文化」、「ヨーロッパの社会」という科目が設けられており、これは、ドイツ語学科およびフランス語学科の一部の科目を、交流文化学科の専門科目と同様に履修できるものです。この他、4学科の教員が協力して開設する外国語学部共通科目もありますので、充分活用して幅広い教養を身に付けてください。

「交流文化論」について

ドイツ語学科、英語学科、フランス語学科の学生は、交流文化学科の以下の科目を、「交流文化論」という科目として履修することができます。ドイツ語学科およびフランス語学科の学生は16単位まで、英語学科の学生は8単位まで履修できます。

ツーリズム部門	トランスナショナル部門
ツーリズム文化論	トランスナショナル・メディア論
航空事業論	表象文化論
ツーリズム事業論	開発文化論
ホテル・クルーズ事業論	トランスナショナル社会学
国際イベント・コンベンション論	食の文化論
ツーリズム政策論	国際子ども人権論
地域づくり論	国際ジェンダー論
ツーリズム人類学	メディア社会学
オルタナティブ・ツーリズム論	英語圏の文学と文化
エスニック・ツーリズム論(※)	トランスナショナル文化特殊講義(※)
ツーリズム特殊講義(※)	
フィールドワーク論(※)	

※原則として定員100名以下の場合は、英語学科生のみ履修可能です。

適用カリキュラム

履修する科目のカリキュラムは入学年度、学科によって異なります。カリキュラムの詳細は各学科の授業科目表(学則別表)のとおりです。所属学科および外国語学部共通科目および全学共通授業科目のカリキュラムにしたがって科目を選択し、履修してください。

卒業に必要な単位数

卒業するために必要な単位数は**128**単位です。  
各学科、選択するコースによって、必修科目、選択科目等の要件が決められています。

登録上限

各学期で登録できる単位の上限が設けられており、学科により異なります。ただし、教職(各教科の教科教育法は除く)・司書教諭・司書課程の科目は、この中に含まれません。

科目の学期配当

学修の効用に配慮し、科目を履修するのに望まれる学期と履修できる学期が指定されています。各学科の授業科目表ならびに科目特性表等を参照し、4年間の履修計画を立ててください。

クラス指定科目

学科基礎科目群のほとんどすべての科目がクラス指定になっています。各学科の説明および科目特性表を確認してください。

重複履修ができる科目

各学科の科目および外国語学部共通科目のうち、重複して履修できる科目があります。各学科、外国語学部共通科目の説明ならびに各学科の科目特性表を確認してください。

コースの選択と登録

ドイツ語学科、英語学科、フランス語学科では、将来の進路に合わせ、体系的な学修ができるようコースを設けています。  
コースは各学科所定の学期に選択し登録しなければなりません。  
登録する学期等は学科により異なります。各学科の説明を参照してください。

「演習」

外国語学部では、「演習」(ゼミナール)が5~8学期の必修になっています。  
全員が「演習」(ゼミナール)に参加することは、本学部の特色であり、伝統でもあります。指導教員のもとで関心の強い分野について主体的に学問的な研鑽を積み重ねることになります。  
4学期に募集・選考を行います。

「卒業論文」

「卒業論文」は、原則として7学期に所定の手続きを行った上で8学期に登録し、提出した論文の審査を受け単位を修得する科目です。卒業論文を提出する学生は、以下の手続きを経ることになります。

3月下旬～4月上旬	『卒業論文の手引』の配付（PorTaⅡに掲出）
5月中旬	<b>卒業論文題目届の提出</b>
6月下旬	主査・副査の確認
9月中旬～下旬	<b>履修登録</b>
11月上旬	卒業論文提出票の配付（PorTaⅡに掲出）
12月上旬～1月上旬	<b>卒業論文の提出</b> （提出方法は学科により異なる）
1月	口頭試問（ドイツ語学科 フランス語学科のみ）
3月	返却論文の受け取り

〈注 意〉

- ①手続き漏れのないよう、所定の時期にPorTaⅡで確認してください。
- ②各学科により、論文書式等が異なります。詳しくは『卒業論文の手引』（PorTaⅡに掲出）を参照してください。
- ③留学からの帰国者など、9月に卒業を予定している学生については、上表の日程が異なります。詳細は教務課外国語学部係で確認してください。

外国語学部共通科目について

外国語学部共通科目は、学科の専門領域を越えた総合的な知識と国際的視野を獲得するために設けられています。「総合講座」は、ひとつのテーマをめぐって一人ないし複数の教員が授業を担当するものです。また、「情報科学概論」および「情報科学各論」は、現代社会で不可欠なコンピュータの基礎理論とその運用能力の修得を目的にしています。

外国語学部共通科目授業科目表

学則別表Ⅰ-5 外国語学部共通科目

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目特性表

科目群	科目	開始学期	備考
外国語学部共通科目	総合講座	1	重複履修可
	情報科学概論a	1	
	情報科学概論b	2	
	情報科学各論	1	重複履修可。ただし、副題が異なること
	経済原論a	3	
	経済原論b	4	
	社会心理学a	3	
	社会心理学b	4	

「情報科学各論」には大きく分けて、Office系のアプリケーションの操作方法を学ぶ科目と、ホームページ作成について学ぶ科目があり、いずれも入門科目および応用科目にレベル分けされています。各科目のシラバスを熟読のうえ、自分のレベルに合った科目を受講してください。

入門科目		応用科目
情報処理演習 総合		Office中級
情報処理演習 英語	➔	Word中級
情報処理演習 ヨーロッパ言語		Excel・プレゼンテーション中級
		プレゼンテーション中級
HTML初級	➔	HTML中級

**他学部および  
他学科科目の履修**

他学部（国際教養学部、経済学部、法学部）および他学科（外国語学部内）の科目を履修することができます。幅広い教養の確立とともに、各自の専門分野の内容を充実・発展させるより広い範囲にわたる知識の修得を目的としています。

〈履修上の注意〉

- ①卒業に必要な選択科目のうちドイツ語学科・フランス語学科は20単位、英語学科・交流文化学科は16単位までは他学部および他学科の単位をもって代用することができます。
- ②他学部（国際教養学部、経済学部、法学部）の科目については、卒業要件に算入できるのは8単位までです。
- ③3学期から履修できます。
- ④他学部・他学科の科目の学期配当にしたがい履修できます。科目の学期配当は各学部学科の科目特性表を参照してください。
- ⑤履修できない科目  
他学部・他学科の科目のうち、次のものは履修することができません。
  - ・ 合併科目：所属学科と他学部等で授業が合併で開講される科目
  - ・ 類似科目：所属学科または学部共通科目と類似した内容で開講されている他学部の科目
  - ・ その他：必修科目で受講制限のある科目

## 免許及び資格課程

教職  
司書教諭  
司書

教育職員免許状および司書教諭・司書資格の取得を目指す学生のために、免許及び資格課程が設けられています。

履修開始学年(学期)は、教職課程は1学年(1学期)から、司書教諭・司書課程は2学年(3学期)からとなります。

履修に際しては課程登録が必要となります。詳しくは「免許及び資格課程」のページを確認してください。

〈履修上の注意〉

以下の教職・司書教諭・司書課程科目は卒業要件外です。履修登録上限単位数にも含まれません。

- ・教職課程：教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目
- ・司書教諭課程：全ての司書教諭科目
- ・司書課程：全ての司書科目

免許及び資格課程再試験

卒業要件を完全に満たした学生で、免許及び資格取得に必要な要件のうち2科目以内の単位が不足している者を対象に行われます。卒業発表と同時に、免許及び資格課程合格者、再試験対象者を発表します。